

ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	北海道放送（株）
-------	----------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	2015年度以降は（あるいはそれ以前にも）、ワイヤレスブロードバンドの普及期となるよう、「IMT-Advanced」の標準化を進め、真のブロードバンド環境の実現に期待します。普及期におけるブロードバンド環境とは、100Mbps以上の大容量・高速性が必要と思われます。従いまして、周波数再編アクションプラン（平成22年2月改訂版）に述べられているように、3GHz帯～4GHz帯を最優先候補として検討を進めるべきと期待します。
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	世界最先端のワイヤレスブロードバンド環境を実現するためには、3.9Gの「LTE」、「4×4MIMO」等の要素技術を早急に確立する必要があります。これら要素技術の確立を目指すためにも、地上テレビジョン放送のデジタル化に伴う空き周波数である730MHz～770MHz及び第2世代携帯電話の終了に伴う915MHz～950MHzを、早期に移動通信に有効活用されることを期待します。
(3) 関連する国内外の動向と課題	730MHz～770MHz帯の隣接である770MHz～806MHz帯は、現在、放送事業者が番組制作の映像FPU及び特定ラジオマイクで運用しています。FPU運用では、その伝播特性から、マラソン等の移動中継やビルに囲まれた都市部での報道中継でもその有用性が証明されています。特定ラジオマイクは、放送事業者のみならず幅広いユーザーが、スタジオ・舞台・コンサートホール・中継まで利用しています。これらの周波数は、その運用を綿密に調整し、有効活用を十分に図っています。 放送事業者は、これまで、格段にグレードの高い設備を構築・維持・管理・運用に努めてきました。それは、放送の社会的影響が大きく、番組制作設備・送出設備・送信設備について、もっとも安定したものでなくてはならないからです。800MHz帯は、安定した番組の制作に不可欠であり、継続して利用可能となるよう希望します。